

あくね

文化財ガイドマップ



①神舞 (波留・南方神社) 県指定無形民俗文化財

藩政時代8年目ごとの庄屋交代期に行われた豊年祭りで、現在も引き継がれている。

この舞は幼児の露払いに始まり、瓶舞・弓舞・剣舞・田之神舞・將軍舞と続き、鬼神舞で終わる七つの舞から成っている。特に最後の鬼神舞は、同社に伝わる鬼神面をつけた男壮なものであり、舞のクライマックスで「笑う」と言われている。

祭りは8年ごとの旧暦7月28日に行われる。

※ 舞に使用される「鬼神面」「翁面」は市指定文化財

阿久根市教育委員会

阿久根の地名の由来

- * 平安時代の中頃(1120年頃)鎮西平氏の流れをくむ大宰大監季基を祖先とする神崎氏が、この地方を領し「英祢氏」を名乗る。鎌倉時代になると「莫祢氏」とも書くようになった。
- * 宝徳3年(1451)薩州島津家の創設と同時に、莫祢を阿久根に改めた。
- * 文禄2年(1593)薩州島津家が領地没収されると同時に、阿久根氏一族は各地に離散し、阿久根の地名だけが残った。

〔阿久根の歴史〕

	西暦	郷土の動き	西暦	郷土の動き			
古墳時代	300	鳥越古墳群が出現した(1号)	大	1912	中村静興が温泉発掘に成功した。		
	400	同(2-6号)		1913	電話が開通した。		
	500	藤本古墳群が出現した。 (糸割瀬1-2号) (新田丘1-4号)		1918	市街地に電灯がついた。		
平安時代	900	英祢駅が設けられた。	正	1922	鉄道が開通し、阿久根・牛之浜駅ができた。 (1927年全線開通)		
	1124	神崎太郎成業が英祢院司になった。 賀喜城ができた。		1923	村立阿久根高等女学校ができた。		
鎌倉	1451	出水に薩州島津氏がおこった。 莫祢を阿久根に改めた。	正	1924	下出水村を三笠村に改めた。		
				1925	阿久根村が町制を施行した。		
室町	1547	田代の戦いがおこった。	昭	1926	大島に馬毛島の鹿を放った。		
	1557	大川の戦いがおこった。		1945	戦災により市街地が焼失した。		
	1561	ポルトガル船が阿久根に来航した。		1948	大丸に阿久根町役場が新築された。		
安土桃山	1568	深迫の戦いがおこった。	昭	1949	下村に三笠村役場が新築された。		
	1593	薩州島津家領地が没収された。 阿久根氏離散		1952	阿久根市が市制を施行した。 市章を制定した。		
江戸	1659	折口伊兵衛重芳、焼酎造りを始めた。	和	1953	三笠町が町制を施行した。		
				1772	謝文旦が阿久根に漂着し、朱樂、白樂(ポントン)を贈った。	1955	三笠町と合併した。
				1818	額山陽阿久根に来て「阿嶺嶺」の詩をつくった。	1971	市の木「阿久根ポントン」が指定された。
明治	1869	慶長殿敷により寺や仏具が焼かれた。	平	1974	黒之瀬戸大橋が完成した。		
	1889	阿久根村制がしかれた。		1978	鶴見町に阿久根市役所が新築移転した。 阿久根市民憲章が制定された。		
平成	2004		平	1989	鳥越古墳発見		
				肥後おれんじ鉄道が開業した。 はまじんちょう公園が完成した。			

県・市指定文化財関係

阿久根には多くの文化財があり、そのうち県・市指定の文化財は21件(平成20年度現在)がある。



② **ハマジンチョウ(潟)** 県指定天然記念物
亜熱帯地方に生える常緑の灌木で、九州本島では唯一の自生地とされる。11月から4月頃まで紫の花が咲く。



④ **脇本古墳群(糸割洲古墳群)**
(上原) 県指定史跡
箱式石棺2基からなる古墳群。6世紀頃のものと推定される。
鉄剣・鉄鏡等が確認されている。出土品は市郷土資料館に展示されている。(市指定文化財) 市指定史跡新田が丘古墳群を合わせて脇本古墳群と言う。



③ **阿久根砲(郷土資料館)** 県指定有形文化財
砲身3m、口径7の鋼製の大陸砲で、16世紀頃のポルトガルのもので推定され、来航した船の備砲であったと考えられる。昭和32年(1957)、浜町の海岸で発見されたものである。



⑤ **八郷のヘゴ(八郷)** 市指定天然記念物
九州本島では北限の自生地である。
熱帯・亜熱帯に産する木性シダで寒さに強い。



⑥ **脇本窯跡(嶋之浦西)** 市指定史跡
南九州で初めての本格的磁器窯として安永年間に創設されたが、やがて廃絶。その後、これを引き継いで薩摩川内平佐に再興されたものが平佐窯である。
脇本窯は、4個の燃成室をもつ肥前式連房登窯であるが、道路工事のため当時の窯跡は見られない。

⑧ **天狗山の磨崖仏(馬見塚)** 市指定有形文化財
天狗山中腹にある三条の岩石で中央に梵字で不動明王を表す「(カーンマン)」と記されている。また、「正徳三天五月吉日敬白」などの文字も読まれる。
極めて険しい山であり、修験者たちの修行の場であったと言われ、いぬの害虫の退散に御利益があるとして尊崇されていた。



⑨ **空願法印像(中央公園)**
市指定有形文化財
正徳・享保の頃(1710年代)、毎年のように大火が焼いた阿久根では、空願法印を招き火留めの祈禱を行った。法印は、戸柱海岸で七日間の断食・水行を行ったところ、その法力によって阿久根の大火は絶えたと言われる。法印とは僧の最高位の名称である。



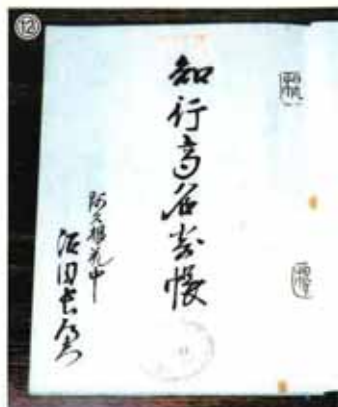
⑦ **脇本古墳群(新田が丘古墳群)** (上原)
市指定史跡
横穴式石室2基、箱式石棺1基、地下式板石横石室1基からなる古墳群。5~6世紀頃のものと推定される。
県指定史跡糸割洲古墳群と合わせて脇本古墳群と言う。



⑩ **南方神社の石鳥居(波留)** 市指定有形文化財
折口伊兵衛重芳が、寛永の本垣(元年が1624年)に阿久根に移住し、築郡造が成功したことを、神に感謝して寄進した鳥居である。



⑪河南文書(郷土資料館)市指定古文書
島津藩の御用商人として幕末に活躍した河南家六代、七代源兵衛の残した海運を中心とした一連の文書である。当時の海運事情などを知る貴重な資料とされている。



⑫沼田文書(山下)市指定古文書
一向宗を擁護する「一向宗訴人」であった沼田家の一向宗関係の資料。当時の一向宗弾圧を知る貴重な資料である。写本が資料館にある。



⑬鳥越古墳1号墳石室(瀧)市指定有形文化財
平成元年(1989)、土地区画整理中に発見され、現地に移設された竪穴式石室。4世紀中頃と推定され、鹿児島県内では最古の高塚古墳である。同一丘陵上から地下式板石積石室が6基、その他の墓制2基も確認されている。



⑭～⑰南方神社(諏訪神社)宝物(波留)市指定有形文化財
南方神社には、古くからの貴重な文化財が保存されている。「神舞」に使用される「鬼神面」⑭は、宝暦年間頃(元年は1751年)の製作と言われ、舞のクライマックスには、この面が「笑う」と言い伝えられている。同じく「新面」⑮も「神舞」に使用される面である。2面の素文鏡⑯は、13～15世紀頃の、元～明の鏡と見られる。一対半ある木造の狛犬⑰は、中世の頃の作品と見られる。



⑱木造阿弥陀如来像(上野・蓮華寺)市指定有形文化財
鎌倉時代に製作された阿弥陀如来像である。後世に補修されているが、鹿児島県では希少な中世の仏像である。蓮華寺には、他にも貴重な仏像が残されている。



⑲久保下の田の神像(山下)市指定有形文化財
豊作を祈る石像で、阿久根市内には、約60体の田の神像がある。この「久保下の田の神」は、明治時代に「タノカンサア オットイ」の風習にあい、大宴御利益がありその後返されたとのいわれがある。また、毎年旧暦の十月にお化帳をする習わしがある。

⑳脇本古墳群出土遺物(郷土資料館)市指定有形文化財
指定史跡である脇本古墳群から出土した鉄剣、鉄刀、鉄鏡などである。



㉑小木原三楽の墓(大尾)市指定有形文化財
本名を庄兵衛(荘兵衛)といい、弓・鞍・馬術の達人。特に馬術は藩内でも屈指の腕前であり、また、馬の調教にもたけていた。これらの武芸のほか、造園・製茶法などを習得して茶業振興に貢献した。晩年は、馬術・製茶・造園の三つを楽しみとしたことから「三楽」と号し、その余生を大尾で過ごした。

史跡関係

古く旧石器から現在にわたる阿久根の長い歴史の中で、多くの史跡が残されており、その代表的なものとして、次に紹介するものがある

㉒



㉒津口番所跡(臨本・倉津)

薩摩藩が港に出入りの船を監視し、積荷等や乗員を検査するために藩内24ヶ所に設置した番所が津口番所で、阿久根には臨本と倉津に置かれた。特に臨本の番所は、藩境に近く、東シナ海側で、領内外から出入りの船は、すべてここで調べを受けることとなっていた。

㉓



㉓田代鉢山跡(尾原)

田代周辺は江戸時代から銅の産出が行われ、断続的に昭和30年代まで続けられてきた。

㉔



㉔林少佐戦死の地(折口)

昭和20年(1945)4月21日、旧海軍最強の名をほしいままにした第343航空隊の戦斗407隊長林壽重大尉は、この上空で敵B29と交戦、一機撃墜するも自らも被弾、ここ折口の海岸に墜落戦死した。現在供養の碑が建つ。

㉕



㉕本土防御陣地跡(臨本)

太平洋戦争末期の昭和20年(1945)、日本軍は、連合軍上陸に備え九州南部に多くの部隊を配置し敵の上陸に備えた。

ここは、その時の米軍上陸に備えた陣地跡の一部である。

石塔類

長い歴史の中で、人々は色々な思いを石塔に刻んできた。阿久根市内各地に数多く石塔類残る。



㉖英祿(あくね)氏の供養塔(山下)

1120年頃から、実質的に阿久根の領主であった英祿氏の初代から三代までの供養塔だと言われる。



㉗湯田家石塔群(尻無)

戦国時代、湯田兵庫介成重が、大川の上之城・下之城を拠城としていたと言われる。下之城跡と言われる丘の石塔群は、湯田家の墓石群と言われる。

㉘



㉘庚申塔(塚)(瀬之浦他)

庚申塔は、庚申信仰に基づいて建てられた石塔である。このような庚申塔が市内にいくつか見られる。

㉙



㉙石敢當(山下他)

道路の辻の角に建てられた魔よけの石塔。元々は中国の風習で、日本国内では沖縄などに多く見られる。「石敢當」の文字が刻まれており、阿久根市内に数箇所残っている。

石塔類



㉔火之神像(市街地)

災害防止とその祈願のために造られたもので、上野・本町を中心に市街地地区にいくつか見られる。



㉕雪溪和尚の墓(尻無・松岡神社)

長寿寺の僧雪溪は、十数年も続く東郷浪谷一族と薩州島津家との争いを無益なものとして、東郷側との和議を回ったが聞き入れられず、弘治3年(1557)11月の大川の戦いで薩州側の多くの武将と共に戦死した。



㉖沈溺底霊塔(下村)

寛政11年(1799)3月10日、阿久根大島の金毘羅祭りに行った船本郷衆29名が帰途、乗船の転覆によって遭難・水死した。その慰霊碑である。



㉗中馬大蔵の墓(瀬之浦)

中馬大蔵は、力量すぐれ、朝鮮の役や関ヶ原の戦いで目ざましい働きをした戦国武士であり、城目警備として出水郷西目村(船本地区)の警備の物主(隊長)として瀬之浦に住んだ。大変な豪傑で、いくつもの逸話が残っている。

名勝地

東シナ海に約40kmの海岸線を持ち、緑の大地に恵まれた阿久根には県立公園を始め、多くの名勝地があります。



㉘黒之瀬戸

阿久根と長島の間を横たわる海峡で、古くから「はやひとのきつまつせ」として知られ、「万葉集」のほか、ここを詠んだ多くの歌がある。

『山人の 薩摩の瀬戸を 雲屑なす 遠くも吾は 今日見つるかも』 万葉集にある長田王の歌である。



㉙阿久根大島(母子島)

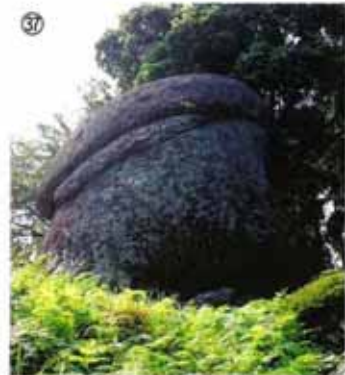
『三國名勝圖會』(天保14年(1844))にも記載され、古くからの名勝地として知られる。大島の鹿は、元々藩主島津光久によって放されたと言われ、大島にある金毘羅神社は、天明7年(1787)藩主島津重豪により勧請されたと言われる。

現在でも「日本の快水浴場百選」や「日本の名松100選」に選ばれている名勝地である。



㉚牛之浜海岸(牛之浜)

大川から西目にかけて、東シナ海の荒波に洗われた奇岩奇礁の乱立する海岸で、県立公園に指定されている。瀬山陽公園にある『阿崎嶺』の詩は、文政元年(1818)この地を西遊中の瀬山陽がこの景観を詠ったものである。



㉛陰陽石(いこいの森)

市民いこいの森公園内に、陰陽石がある。高さは陰石が1.5m、陽石が1.2mにもおよぶ巨石で、ともに縁結びの神、子宝を授かる神などと親しまれている。

阿久根七不思議

阿久根には古くから伝わる「阿久根七不思議」がある。



③光礁(戸柱)

戸柱山前の海岸にある大きな岩礁。不思議な光を発するので、光礁と呼ぶようになったと伝えられる。沖合に大島・桑島などが浮かび、素晴らしい景観を呈する。



④隔岡の塩田(潟)

江戸時代初期の頃から、岡一帯は海岸から遠く離れたにもかかわらず地底から塩水が湧き、良質の塩がつくられる塩田であった。伝説によると旅の僧(弘法大師ともいわれる。)によって製塩法を教えられたという。現在、塩釜神社が祀られている。



⑤大人足形(天狗の足跡)(波留)

八幡神社の大石に、長さ60cmほどの足形の凹みがある。

伝説によると、この地方に住んでいた大人(天狗)が、村人たちにけしかけられて大島まで跳んだ時にできた足跡と言われる。



⑥黒神岩(波留)

海岸から離れたところに、海岸で見られる巨大な岩礁が立ち並び、これを黒神岩と呼び、昔このあたりが海であった頃の名残といわれる。

現在では公園となり、周囲も住宅が建ち並んでいる。



⑦岩船(永田)(写真は鍋石)

戦にやぶれ、丹波の国から逃げてきた船が、舵が折れ、折口川河口に座礁し、岩になったと言われる。現在は打ち寄せた砂で埋没しているが、石船神社が残る。梶折鼻、鍋石、筒田、餅井などは、この岩船に由来した地名である。



⑧小湊崎穴(佐湯の洞窟)(佐湯)

東シナ海に突き出た佐湯半島の中ほどにある洞窟。入り口は狭く、人がようやく節で通れるほどだが、中は広くなっている。洞窟は数条に分かれ、コウモリなどが生育する。

伝説によるとこの洞窟は、鰐島に続いていとも言われる。



⑨尻無川(尻無)

尻無地区を縦断して流れる川の河口は砂礫で埋まき、幕がってしまっている。このようなことから、尻の無い川と呼ばれ、付近の集落も尻無という。

その他



⑩石橋(尾崎他)

阿久根市内には大正～昭和の初め頃に造られたつの石橋(尾崎橋・有田橋・弓木野橋・北崎橋・中津橋・牛ノ浜橋)が残っている。

尾崎橋は、大正6年(1917)、尾崎の石工、尾崎清を中心と造られたものである。



④⑥ [ひな女]祭り(佐潟)

旧暦4月8日、女の子を後ろ向きに背負って踊る祭りである。古く江戸時代からの伝承で、初孫の幸せを祈って披露したと伝えられ、このまつりは一般に、「いのち長」とも言い、子孫繁栄の願いを込めたものと言われる。



④⑦ 山田楽(古里他)

関ヶ原の合戦の勇将で、出水の名地頭と言われた山田昌胤の、出征から凱旋までを取り込んだ踊りと言われる。船本のいくつかの集落に残り、現在、船本小学校・三笠中学校でも伝承されている。



④⑧ アコウ群落(船本浜)

暖地の海岸地に自生する常緑の喬木である。市内のあちこちで見られるが、船本浜のものは気根がからまり、何本も交わりながら群生している。



④⑨ 西徳寺(船本馬場)

本堂は明治44年(1911)、横門は大正2年(1913)に建築された。建造年が分かる市内木造建造物では、最古の部類にはいる建物である。

市立郷土資料館所蔵物

郷土資料館には多くの資料が収蔵されている。指定文化財以外の代表的なものに次のようなものがある。



⑤① 貞福丸の船額

江戸時代末期、河内源兵衛所有の貿易船の船額として使用された物である。船額をはじめ、河内家関係の船舶資料等が多く展示されている。



⑤② 世界地図

河内治助が慶応3年(1867)に写した手書きの地図で、この頃すでに世界に目を向けていた一人の阿久根の経済人の姿を見る事ができる。また、幕末の旧薩摩の国地図も残っている。



⑤③ 隠れ念仏関係資料

江戸時代、薩摩藩において一向宗(浄土真宗)は禁止されていた。しかし、人々は色々なかたちで信仰を続けてきた。それら隠れ念仏関係資料である。

⑤④ 頼山陽の掛軸

頼山陽直筆といわれる。頼山陽は、文政元年(1818)阿久根に一泊し「阿嶺嶺」の詩を作った。(⑤⑤参照)



資料館等



⑤⑤ 尾崎美術史料館(尾崎)

平成14年(2002)11月、尾崎在住の川崎勲氏が自ら集めた史料と知人等の美術品等を展示活用するため、私財により設立した資料館である。開館時間は、午前9時～午後5時、休館日は、月・金曜日である。

番号	文化財	番号	文化財
県・市指定文化財		31	沈 溺 庶 霊 塔
1	神 舞	32	雪 溪 和 尚 の 墓
2	ハマジンチョウ	33	中 馬 大 蔵 の 墓
3	阿 久 根 砲	名勝地	
4	脇本古墳群(糸割岡古墳群)	34	黒 之 瀬 戸
5	八 郷 の ヘ ゴ	35	阿久根大島(母子島)
6	脇 本 窯 跡	36	牛 之 浜 海 岸
7	脇本古墳群(新田が丘古墳群)	37	陰 陽 石
8	天狗山の磨崖仏	阿久根七不思議	
9	空 順 法 印 像	38	光 礁
10	南方神社の石鳥居	39	大 人 足 形
11	河 南 文 書	40	隔 岡 の 塩 田
12	沼 田 文 書	41	黒 神 岩
13	鳥越古墳1号噴石室	42	岩 船
14~17	南方神社(諏訪神社)宝物	43	小 湯 崎 穴
18	木造阿弥陀如来像	44	尻 無 川
19	久保下の田の神像	その他	
20	脇本古墳郡出土遺物	45	石 橋
21	小木原三楽の墓	46	「ひな女」祭り
史跡関係		47	山 田 楽
22	津 口 番 所 跡	48	ア コ ウ 群 落
23	田 代 鉦 山 跡	49	西 德 寺
24	林少佐戦死の地	市立郷土資料館所蔵物	
25	本土防御陣地跡	50	貞福丸の船額
石塔類		51	世 界 地 図
26	英祿(あくね)氏の供養塔	52	隠れ念仏関係資料
27	湯田家石塔群	53	頼山陽の掛軸
28	庚申塔(塚)	資料館等	
29	石 取 當	54	尾崎美術史料館
30	火 之 神 像		